

「オール郡上」で郡上市をアウトドアの聖地に



郡上市は、夏のラフティングなどの自然体験から冬のスキー・スノーボードまで、年間を通してアウトドア体験が楽しめる国内でも希少な地域です。しかしながら、このような魅力があるにもかかわらず、その効果を最大限に生かしてきれていない課題があります。こうした状況を改善し、地域内の経済循環につなげようとする取り組みが動き出しています。

今月号では、アウトドアを軸にしなが、ワンストップ対応による観光客の市内滞在の拡大や動向把握による戦略づくりなど、今年度から本格的にスタートした「観光立市」の新たな事業を紹介します。

郡上市アウトドア事業者協議会を設立

6月11日に、郡上市アウトドア事業者協議会(以下「協議会」)が設立されました。協議会は、市内のスキー場やキャンプ場、自然体験事業者で構成され、設立時において16の団体が会員となっています。協議会の会長を務める谷口美徳さん(ホワイトピアたかすスキー場/株式会社P・I・Aネクスス代表取締役社長)は、「市内のスキー場、自然体験、そしてキャンプ場の事業者が目的を共有して協議会が出来た意義は大きいと思います。郡上のこれからのアウトドアは、個々で発信するのではなく、エリアとしてブランディング



協議会会長の谷口美徳さん

グしながら、地域そのものの価値を高めていくことが必要になっています。」と、「ブランド観光地」としての今後の発展について話されました。

谷口さんは、年間を通じてアウトドアという視点で郡上市を見た時、「四季を通じて自然体験が楽しめるメニューを、これだけ充実して揃えている地域は国内にはあまりない。」とも話され、この恵まれている環境をより一層生かしていくため、アウトドア事業者の連携は欠かせなかったとのこと。今後は、さらに幅広く声をかけ、協議会の会員を増やしていくそうです。

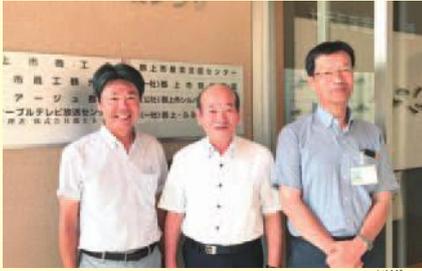
アウトドアのワンストップ窓口を構築

協議会は、(一社)郡上市観光連盟が事業主体として進めるアウトドアWEBサイト(郡上市でのアウトドア全体の玄関口となるホームページ)の構築を手がけるなど、観光分野で「オール郡上」を前面に出した取り組みを行っています。協議会の事務局を務める水口晶さん(ア

ーシッピング/有限会社EAT&LIVE取締役)は、「この事業は、アウトドアのワンストップ窓口の機能を作ることはもちろんですが、さらに、お客さんの動向を収集し、それを分析して次の戦略を練ったり旅行商品を造成するといった、これまで全く手がけていなかった分野でのチャレンジになります。」と、この取り組みの重要性を話されました。

(一社)郡上市観光連盟との連携強化

郡上市全体でのアウトドアの取り組みについては、次の段階として、観光関係事業者を含め市内の幅広い分野における新しい組織づくりへとつなげていきます。昨年一般社団法人となった郡上市観光連盟(以下「観光連盟」)では、アウトドアWEBサイトの構築と並行して、観光連盟のホームページをリニューアルする取り組みに着手しました。今回のホームページ更新にあわせ、閲覧履歴などをもとにインターネット上での必要な

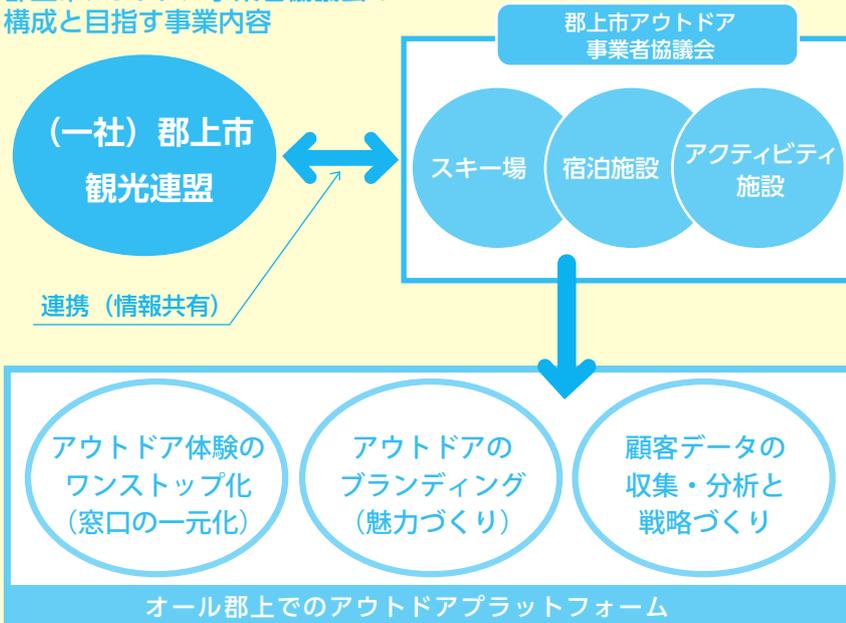


(一社)郡上市観光連盟代表理事の池田喜八郎さん(中央)と事務局長の福手均さん(右)、事務局の土屋周平さん(左)

情報を取得・分析、適切な情報発信やWEB広告などにより、認知度向上や地域ブランディングを図るための「WEBマーケティング」を実践していきます。観光連盟では、この取り組みの成果をもとに、郡上市全体の観光戦略の舵取りを行う組織であるDMO(地域の観光関連事業者等と協働して、観光地づくりに行う組織)の形成について、その中核となつて必要な事業を担っていく予定です。

観光連盟の代表理事である池田喜八郎さんは、「観光連盟として、DMO候補法人の申請準備を進めています。予定では12月までに申請を行い、その後、なるべく早い段階で観光庁から正式にDMOとして認めてもらえるよう、必要な取り組みを順次行っていくとともに、先行して動いているアウトドアの成果も

郡上市アウトドア事業者協議会の構成と目指す事業内容



共有し、魅力あるコンテンツづくりも進めていきたい。」と、これからの活動について話されました。

政策推進の旗印として掲げた「観光立市郡上」は、今年で3年目となり、民間の動きも活性化してきました。市では、観光客の滞在時間と地域の消費額を増やすことで地域社会全体を豊かにする取り組みを、今後一層加速させていく計画です。

アウトドア事業者協議会の会員である事業者のみなさんにインタビューしました

協議会会員の声



スローデザイン(株) 代表取締役 出口 徳男さん (貸別荘業)

郡上にはたくさんの観光客が訪れますが、滞在時間はそれほど長くないと感じています。郡上を訪れた後は高山市や白川郷(白川村)に足を運ばれる人が多いので、市内で2泊、3泊してもらうためには、自然体験などアクティビティの豊富さを生かし、積極的に相互協力をする仕組みが必要だと考えていました。そんな時、協議会の話いただき、迷いなく参加することを決めました。冬のスキー場と夏のアクティビティは、郡上市にとって欠くことのできない資源ですし、この2つの結びつきを強めていけば、人材の共有化につながり、郡上に定着する人も増えると思います。



中部スノーアライアンス(株) 支配人 山下 文雄さん

ひるがの高原スキー場は、これまでの夏の期間は、この場所を目的地として選び訪れるというよりは、「移動の途中で立ち寄り」という感が強かったため、今年からターゲットを明確にした戦略に改め、ピクニック気分でアウトドアを満喫できる「ピクニックガーデン」を始めました。狙う層は20代~30代の女性です。こうした取り組みは、ひるがの高原スキー場独自のものです。やはり、訪れる観光客にはさまざまな「郡上の魅力」をセットで知ってもらう必要があると思っています。単独では難しいことでも、協議会であれば実現できるので、今後の活動に期待を持っています。



(株)フィールドデー 代表取締役 名畑 雅仁さん(右) 取締役社長 原田 雄貴さん(左)

郡上には、魅力的な資源を生かして活動する人がたくさんいます。こうした人たちは、郡上という土地にしっかりと根を張っているの、私たちも安心してお客さんにつなげることができます。フィールドデーはラフティングを行っている会社ですが、これまでは、同業者をはじめ観光事業者との横のつながりが薄かった部分がありました。今回、協議会に参画したことで、人と人のつながりの中でお互いにお客さんに紹介し合える環境が整ったと感じています。また、スキー場もメンバーになっているので、年間を通して若い人が働ける地域を目指していきたいと思っています。